

## ウマは働いて得る餌を好む？ —コントラフリーローディングに関する実験的検討—

氏名：野村早紀

指導教員：瀧本彩加

コントラフリーローディング (Contrafreeloading, 以下 CFL と略す) とは、全く同じ餌 (Free food) が近くの皿から簡単に手に入れることができる状況でも、レバーを押すなどの仕事をしてから手に入れることができる餌 (Earned food) を選ぶ現象のことであり、ヒトを含むさまざまな種で見られる。しかし、動物は一般に、採餌場面で報酬・利益・努力・コストが最も効率よくなることを目指して行動する最適採餌戦略をとるはずであり、CFL はこれに反している。CFL が生じる原因として、動物は餌を得るために働く動機には、餌それ自体を得たいという欲求と、餌の供給源の情報を集めたいという欲求の両方が含まれているという情報優先モデル (information primacy model) が提唱されている。ただし、一連の先行研究には、問題点が大きく3つ挙げられる。(1) CFL の定義が曖昧であること、(2) 課題設定が移動コストを考慮していないこと、(3) 家畜動物で CFL の結果が一貫していないのは生育環境の違いによって説明できる可能性を考慮していないこと の3つが問題点として挙げられる。これらの問題点から、家畜動物を対象に、生育環境の影響も考慮した CFL の検討が必要であると考えられた。そこで、本研究では、先行研究における CFL の定義の曖昧さを解消し、課題設定における問題点も修正した上で、ウマ (*Equus Caballus*) において CFL が生じるかどうかと、生育環境が CFL に影響を与えるかどうかの2点を実験的に検討した。ウマにおいて CFL が生じるならば、選択課題において Free food の選択割合はチャンスレベルである50%を上回らないと予測した。その結果、全30試行の Free の平均選択割合は、76.27%であり、Free チャンスレベルである50%よりも有意に高かった。また、生育環境の影響を検討したところ、普段自由採食をしている個体において CFL が生じやすい可能性も示された。多くの CFL の先行研究とは対照的に、本実験ではウマにおいて CFL は見られなかったが、この原因としては、(1) 課題設定を選択回数に変更したため、(2) 家畜動物では CFL は起こらないため、(3) CFL の発生には生育環境の影響があるため の3つが考えられた。今回開発した選択回数による CFL の評価・分析手法を、ウマ以外の動物にも幅広く応用し、同様の結果が得られるのかを確認することが重要である。家畜化している動物でも CFL は見られるということであれば、給餌方法を工夫することにより、より家畜動物が幸せに暮らしていける動物福祉の手法に新たな提案をすることができるかもしれない。